

日本語教育実習を終えて

姫路獨協大学 金田 英里

一ヶ月という期間は短く、何もしなければすぐに過ぎてしまうため、一日一日を意味のあるものにし、自分自身にとっても学生にとっても有意義な時間になるよう努めることを目標にしてプログラムに参加しました。今振り返ってみると、もっと何かできたのではないかという思いは消えませんが、少なくともこの実習を通して「日本語教師という仕事が好きだ」という思いは自分自身の中で確かなものになりました。

私の担当は三年生でしたが、教師が学習者に知識を与えるのではなく、持っている知識を使って課題を遂行するという授業が中心で、そこに初級とは違う難しさを感じました。しかも会ったばかりで日本語力や性格も把握できていない学生を相手にするため、一回目の授業は不安が大きかったです。大きな失敗はなかったものの、もちろん反省点はたくさんありました。しかしこの短い実習期間の中で成果をあげるために、一回の実習での反省点は次の実習で改善するよう努力しました。先生からアドバイスをいただいたり学生との距離が近づいて来たことで、実習を重ねるごとに少しずつ自信がついていったように思います。また、最後に学生から「恥ずかしくてあまり発言できなかったけど、楽しかったです」と言ってもらえたことで、とてもやりがいを感じました。

テキストに沿った授業のほかに、学生からの要望で関西弁と関西地域を紹介する特別授業もさせていただきました。学生が授業のあとも関西弁を使って話してくれたり、関西についてたくさんの質問を受けたりしたことで、自分の出身地や方言に興味を持ってもらえたことに喜びを感じました。これは日本語教育全体にも言えることで、日本に来たことのない学生でさえ、日本や日本語に興味を持ってくれることは日本人として非常に嬉しいことで、その喜びが日本語を教える原動力にもなる気がしました。

振り返ってみて、一ヶ月の実習の中で得たものはとても多かったです。帰国の際に学生から「これからもっと日本語の勉強を頑張って、日本へ行きます。」といった言葉もらい、私たち実習生との交流が学生たちの動機付けに繋がったことがわかり、プログラムに参加して本当に良かったと思いました。そして私自身も、実習を重ねて少し自信がついたことと、学生の日本に対する興味を引き出したことが、日本語教師を目指す上で良い刺激となりました。日本語教師という仕事の楽しさや醍醐味にも改めて気づくことができました。学生たちが日本語の勉強をもっと頑張ると言ってくれたので、私も良い日本語教師になれるよう、これからもっと努力したいと思います。このような貴重な機会をいただけたことを心から嬉しく思います。ありがとうございました。